

ハーモニー

Harmony

第92号 2023年11月14日発行

一般社団法人

日本養護教諭教育学会

General Incorporated Associations

Japanese Association of Yogo Teacher Education

(一社) 日本養護教諭教育学会

事務局：〒162-0801

東京都新宿区山吹町 358-5

アカデミーセンター

TEL 03-6824-9398

FAX 03-5227-8631

振替口座：00880-8-86414

jayte-post@as.bunken.co.jp

目次

第31回学術集会へのお誘いと企画紹介	1
第31回学術集会プログラム	2
理事会企画へのお誘い	
○プレコンgress ○課題セッション	5
第3回(2023年度)定時総会(代議員総会) の開催について(予告)	5

「新・私の実践と研究」⑥	6
各委員会委員からのメッセージ	
①広報委員会委員の声	7
②学術委員会委員の声	7
事務局からのお知らせ	8
編集後記	8

第31回学術集会へのお誘いと企画紹介

学会長 塚原加寿子(新潟青陵大学)

長い夏も終わり、紅葉の季節となりました。会員の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。新潟で開催される第31回学術集会が近づいてまいりました。今回の学術集会も、現地参加とオンライン参加のハイブリット方式に加え、オンデマンド配信(ポスター発表等一部除く)をいたします。

メインテーマは、「新しい時代に生きる子どもたちの可能性を広げる養護教諭の力」です。

新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、私たちの生活は大きく変わり、子どもの健康課題も多様化・複雑化しました。予測困難な日々の中で、学校保健活動の中核的役割を担う養護教諭は現実的な対応を迫られるとともに、子どもの健康と成長のために、多様な養護実践を積み重ねてきました。「子どもの健康と育ちを支える。」それは、どのような時代になっても変わらないのかもしれませんが、他方、Society5.0時代として社会の在り方そのものが大きく変化し、新しい時代になろうとしています。新しい時代に生きる子どもたちに、養護教諭はどう支援していけばよいのでしょうか。今回は、子どもの可能性を広げるといふ視点で考えたいと思います。

学術集会一日目(12月9日)は、午前中に開会に先立ち理事会主催のプレコンgress「養護教諭の専門性を支える学問について考えよう」を行います。学術集会は、学会長講演「養護教諭の役割認知と周囲のニーズから見えて

きたこと」から始まります。特別講演「体験談から考える子どものきもち」では、講師にぶるすあるのは細尾ちあき氏をお迎えし、気になるけれど、SOSを出さない子どもたちの気持ちについてご講演いただきます。続くシンポジウムでは、シンポジスト3名にそれぞれの立場から子どもの可能性を広げる養護教諭の力についてご提言いただきます。それを糸口として会場と全国をオンラインで結び、議論を通してメインテーマに迫ることができればと思います。

二日目(12月10日)は、午前中は一般演題(口演19題、ポスター7題)の発表を行います。また、助成金研究「教員育成指標に基づく養護教諭のミドルリーダーコンピテンシー・モデルの開発」の発表も同時時間帯に行います。その後、協賛企業によるランチョンセミナー(2会場)もありますので、是非ご参加ください。総会報告の後は、ワークショップ「健康情報の探し方・選び方・使い方を学ぼう!ヘルスリテラシー講座」、「イラストが苦手でもOK!保健室で使えるグラフィックレコーディング」の2題と、課題セッション「複数配置から見えてくる養護教諭のこれからを考える」を企画しました。ワークやセッションを通して有意義な時間を過ごしていただけることを願っております。

多くの皆様のご参加を心からお待ちしています。

連絡先：第31回学術集会事務局 jayte31th@gmail.com
学術集会 HP：<https://yogokyoyu-kyoiku-gakkai.jp/31th/>
参加申し込み：右のQRコード(第31回学術集会ホームページ)からお申し込みください。



メインテーマ「新しい時代に生きる子どもたちの可能性を広げる養護教諭の力」
新潟青陵大学と web 配信によるハイブリット開催（一部を除くオンデマンド配信）

2023年12月9日（土）

◆プレコンgres（10：00～11：40）1206 アクティブ講義室

「養護教諭の専門性を支える学問について考えよう」

本学会理事会

◆受付（12：00～12：50）2階ラーニングコート

◆開会式（13：00～）A会場1302講義室

◆学会長講演（13：10～13：50）……………座長 松永 恵（茨城キリスト教大学）
「養護教諭の役割認知と周囲のニーズから見えてきたこと」 塚原加寿子（新潟青陵大学）

◆特別講演（14：00～15：00）……………座長 後藤ひとみ（本学会理事長）
「体験談から考える子どものきもち」 講師 細尾ちあき（NPO 法人ふるすあるは）

◆シンポジウム（15：20～17：20）

テーマ：「新しい時代に生きる子どもたちの可能性を広げる養護教諭の力」

コーディネーター 大川 尚子（京都女子大学）
加藤 晃子（学校法人滝学園滝高等学校）
シンポジスト 田村 恭子（新潟県立西新発田高等学校）
上原 美子（埼玉県立大学）
北島 忠輔（中日新聞社会部）

◆情報交換会（19：00～）ホテルイタリア軒

2023年12月10日（日）

◆受付（9：00～）2階ラーニングコート

◆一般演題発表＜A会場 1302講義室＞

口演発表A1（9：30～10：30）……………座長 西岡かおり（四国大学）
【養護実践（保健組織活動）】

A-I-1 チーム支援によって不登校生徒が保健室登校を経て教室復帰を果たすまでのプロセス
○菅原 菊子（胎内市立築地中学校）

A-I-2 養護教諭とスクールカウンセラーの連携のあり方
—養護教諭への面接調査から— ○佐藤 美幸（新潟青陵高等学校）

A-I-3 学校とスクールソーシャルワーカーが協働するための養護教諭の役割
—「スクールソーシャルワーカー活用事業」の現状から— ○島瀬 史子（北翔大学）

口演発表A2（10：30～11：10）……………座長 留目 宏美（上越教育大学）

A-I-4 「教職員への養護教諭のリーダーシップ行動自己評価尺度」の開発
—信頼性・妥当性の検討— ○後藤多知子（愛知みずほ大学）、他

A-I-5 教職員への養護教諭のリーダーシップ行動と勤務校や養護教諭自身の属性との関連
○後藤多知子（愛知みずほ大学）、他

◆研究助成金研究発表(11:20~11:50) 座長 工藤 宣子(千葉大学)
教員育成指標に基づく養護教諭のミドルリーダーコンピテンシー・モデルの開発 ○平井 美幸(大阪教育大学)、他

<B会場 1301講義室>

口演発表B1(9:30~10:30) 座長 岩崎 和子(北海道教育大学)

【養護実践(健康相談・保健管理)】

- B-I-1 メンタルヘルスの問題の早期発見・早期対応に健康相談を活用する試み
—知的障害特別支援学校高等部の生徒を対象として— ○與語ゆき枝(愛知教育大学大学院)、他
- B-I-2 養護教諭の記録シートおよび相談活動に対する認識
—記録シート使用の有無による比較— ○岸 美貴(新潟県立柏崎高等学校)、他
- B-I-3 3Dボックスキャナーを用いた脊柱検診の実践報告
—思春期特発性側弯症とクラシックバレエとの関連—
○磯谷 由希(東京大学教育学部附属中等教育学校)、他

口演発表B2(10:30~11:10) 座長 三森 寧子(千葉大学)

【原論】

- B-II-1 養護教諭が行うまちの保健室の活動の特徴
—野村美智子氏の実践の意図の分析— ○松永 恵(茨城キリスト教大学)
- B-II-2 養護教諭が働く姿と保健室
—2010年代以降のテレビドラマから— ○長濱 桃花(北海道教育大学教職大学院)、他

口演発表B3(11:10~11:50) 座長 鈴木 裕子(国士館大学)

- B-II-3 養護教諭の職業的アイデンティティ形成プロセスに関する研究
○西川 深雪(北海道教育大学附属函館中学校)
- B-II-4 児童の養護をつかさどる養護教諭は、児童の権利を養護しているか
—「児童の権利」を養護するために、必要なことは— ○鎌田 尚子(女子栄養大学)、他

<C会場 1304講義室>

◇口演発表C1(9:30~10:10) 座長 笠巻 純一(新潟大学)

【養護実践(健康教育)】

- C-I-1 特別支援学校における養護教諭の役割と意義の検証
—個別体重管理支援を中心として— ○小野寺留菜(宮城県立光明支援学校)
- C-I-2 離島の小規模小学校における歯・口の健康づくりの成果と今後の課題
○綾田 美友(高松市立男木島小中学校)、他

口演発表C2(10:10~10:50) 座長 辻 京子(香川大学)

- C-I-3 自分の命を守り抜く児童の育成
—実践的な避難訓練を通して— ○藤井 雪恵(名古屋市立白沢小学校)、他
- C-I-4 中学校養護教諭のメンタルヘルスリテラシー教育の実態のための文献レビュー
○関間美智加(新潟大学養護教諭特別科)、他

口演発表C3(10:50~11:50) 座長 浅田 知恵(愛知教育大学)

【その他(生徒指導、ヤングケアラー)】【養成教育】

- C-II-1 発達支持的生徒指導をめぐる養護教諭の意識と実践 ○吉村 知容(花園大学)、他
- C-II-2 インタビュー調査から見た小学校養護教諭のヤングケアラー対応の課題—第2報—
○辻 京子(香川大学)、他
- C-II-3 養護教諭養成における「教職論」の実態に関する研究 ○久恒 拓也(新見公立大学)

<D会場 1309 講義室>

ポスター発表P1 (9:30~10:10) 座長 下村 淳子(愛知学院大学)

【養成教育】

P-I-1 若手養護教諭の多職種連携におけるコンピテンシーに関する研究

—若手養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの立場から—

○宇佐美尋子(聖徳大学)、他

P-I-2 コロナ禍が養護実習にもたらしたもの

○大塚 朱美(千葉科学大学)

ポスター発表P2 (10:10~10:50) 座長 脇川 恭子(新発田市立七葉小学校)

【現職教育】

P-II-1 現職研修における心肺蘇生法講習の効果的な実施方法についての一考察(第2報)

—3年間の実践を通じた経年変化から—

○圓岡 和子(愛知教育大学附属高等学校)、他

P-II-2 心肺蘇生法講習を短時間で効果的に実施するための研修過程の考察(第2報)

—45分間で実施する研修の効果と実践結果—

○北川 瑠菜(神奈川県立金沢支援学校)、他

ポスター発表P3 (10:50~11:50) 座長 高田恵美子(畿央大学)

【養護実践(保健組織活動)】【その他(学術の動向)】

P-III-1 学校と児童養護施設の連携に関する現状と課題(第1報)

—養護教諭の視点からの文献検討—

○上原 美子(埼玉県立大学) 他

P-III-2 養護教諭の視点から捉えた小中学校における性的虐待対応

—一般教員と養護教諭に向けた質問紙調査から—

○目黒 治子(長野市立犀陵中学校)

P-III-3 年次学術大会(2020~2022年)の演題の比較・考察

—米国スクールナース学会(NASN)と日本養護教諭教育学会—

○面澤 和子(前・弘前大学)

◆ランチョンセミナー(12:00~13:00)

ランチョンセミナー① A会場 1302講義室 座長 丸山 幸恵(新潟医療福祉大学)

「みんなで考える!なやましい子どもの頭痛」

講師 呉 宗憲(東京医科大学小児科・思春期分野)

ランチョンセミナー② C会場 1304講義室 座長 倉澤由紀子(新潟市教育委員会)

「成長曲線から見える疾患—学校検診での成長曲線の活用—

講師 阿部 裕樹(新潟市民病院小児科)

◆総会報告(13:10~13:30) A会場 1302講義室

◆ワークショップおよび課題セッション(13:40~15:30)

○ワークショップ① B会場 1301講義室

「健康情報の探し方・選び方・使い方を学ぼう!ヘルスリテラシー講座」

講師 佐藤 晋巨(聖路加国際大学)

中村めぐみ(聖路加国際大学)

江部紀美子(お茶の水女子大学附属小学校)

○ワークショップ② C会場 1304講義室

「イラストが苦手でもOK!保健室で使えるグラフィックレコーディング」

講師 中村 華子(特定非営利活動法人みらいず works)

○課題セッション A会場 1302講義室

「複数配置から見えてくる養護教諭のこれからのを考える」..... 本学会 理事会



理事会企画へのお誘い

○プレコンgres (1日目午前)

養護教諭の専門性を支える学問について考えよう

学術担当常任理事 鈴木裕子

プレコンgresとは、学術集会(コンgres)の活性化を目指して、学術集会が開催される前(プレ)に行われる企画です。事前申し込みの必要はなく、どなたでも参加できます。台風やコロナ禍の影響によりしばらくの間プレコンgresを開催することができませんでしたが、数年ぶりに実施できそうです。しかもハイブリッド開催!です。

一般に学問は、実践と研究の往還を通して議論を重ねることにより、学問体系や理論が構築されていくとされています。本学会では、その足がかりとして、2012年から学術集会での一般発表の演題区分を設定しています。これをもとに養護教諭教育を支える学問領域の試案提示につなぐことを目指しています。当日は、そうした説明に続き、様々な立場の混合グループで話し合いを行います。学問体系というとなじみませんが、研究や実践を進めるうえで、その課題や、それを現在の一般発表演題区分にあてはめると、どの領域に当てはまるか、またそこから養護教諭の実践を支える学問につないでいくにはどうしたらよいかなど、自由に意見交流を深め、学びあいましょう。

このプレコンgresは理事会主催、運営は学術委員会が担当します。たくさんのご参加をお待ちしています。どうぞよろしくお願いいたします。

○課題セッション (2日目午後)

複数配置から見える養護教諭のこれからを考える

編集担当常任理事 山崎隆恵

第31回学術集会の2日目午後に、理事会主催の課題セッションを開催します。

このテーマの設定は、現在、複雑に絡み合う社会的背景から少子化が進み、学校の統廃合が行われたり、教職員の配置基準が見直されたりしていること、そして養護教諭複数配置制度の縮小が懸念され、健康面に限らず増加している子どもを取り巻く複雑な問題に対応する人的環境の整備について考える必要が生じていることに起因します。養護という機能を有する養護教諭がその役割を全うする上で、複数配置はどのような成果をもたらしているのでしょうか。養護教諭の配置の今後を見据えた意見交流を行い、子どもたちのための養護教諭の働き方についても考えてみたいと思います。

コーディネーターは、外山恵子理事、高田恵美子編集委員にお願いし、2名の提言者に次のテーマで提言をお願いしました。

提言1) 外山恵子理事「少子化や学校統廃合が進むなかで養護教諭の複数配置は存続できるのか」

提言2) 今富久美子編集委員「一つの保健室に二人の養護教諭がいるということ」

ハイブリッド開催となります。多くの皆様のご参加をいただき、幅広く意見交流を行いたいと思います。

一般社団法人日本養護教諭教育学会 第3回(2023年度)定時総会(代議員総会)の 開催について(予告)

理事長 後藤ひとみ

本学会の定款第22条の規定により、下記日時にて定時総会を開催いたします。

代議員の皆様には、会日の2週間前までに招集通知等を送らせていただきます。

なお、会員を対象として、第31回学術集会の会場にて2日目の13時10分から20分程度の「総会報告」をいたします。詳細は学会HPをご覧ください。

○開催日時 2023年12月8日(金) 15:30~17:00

○開催会場 新潟青陵大学(原則として会場参加)
但し、オンライン参加を可とします。

○主な議事 2022年度事業報告
2022年度決算報告
2023年度事業計画案
2023年度予算案
2023年度の理事の再任
2023年度・2024年度の監事の選任
選挙管理委員会委員の選出等



学び続ける—教職大学院に進学して—

金山 結 (福山市立赤坂小学校)

私は、養護教諭になって今年10年目を迎えました。現任校は、2校目で全校児童約260名の小学校です。子どもたちは、友達のことを大切に優しい子が多く、先生方もお互いに自然に協力し合う学校です。このような恵まれた環境で仕事をしていますが、現在、教職大学院に進学して学んでいます。

現職生活の中で、自分の実践に対し「本当にこれでよいのか」と感じることもあり、もっと学びたいと思いつつも、目の前の仕事に対応することで精いっぱいでした。そんな時、新型コロナウイルス感染症流行の中で、公文書の内容を簡潔に説明したり、根拠を持って自校での対応を提案したりすることに困難を感じ、自分の力量不足を痛感しました。そこで以前から考えていた大学院進学を強く意識するようになりました。大学時代からお世話になっている先生や、大学院進学経験のある先輩方に相談しました。苦勞することが多いけれども力がつくこと、費用もかかるので覚悟が必要と助言をいただきました。現任校へ研究授業で来ていただいていた大学の先生にもお話を伺うことができ、具体的に大学院で学ぶイメージができていきました。

2022年度、子どもたちも新型コロナウイルス感染症に対する新しい生活様式に慣れ、学校も落ち着きを取り戻してきたのをきっかけに、自ら奮起し1年間の休職を認めていただき、教職大学院へ進学することができました。

教職大学院では、現職の先生方、新卒の学生さんと共に学んでいます。それぞれ校種や専門が異なること、他県の大学院に進学したことで、新たな発見もあります。視野が広がり様々な視点をもつことができるようになってきていると感じています。

また、教職大学院の授業では、現任校のカリキュラムマップ、教育内容、学校評価について発表する機会がありました。さらに、他の現職教員や多くの大学の先生方から助言をいただける合同省察会という機会があり、様々な専門的な視点からご指摘、ご意見をいただけます。これらの機会によって、養護教諭の視点だけでなく、学校の様々な立場の先生方の考え方を知ることができ、養護教諭の取組についても俯瞰して見ることを意識できるようになりました。

教職大学院では、研究テーマを決めるために、新型コロナウイルス感染症に関する先行研究の調査と、自分自身の実践の振り返りに取り組みました。

まず、先行研究の調査を通して、「個々の学校の状況に合わせて判断する力」や「備えの必要性」などに課題があることが挙げられていました。

また、実践の振り返りでは、「新型コロナウイルス流行中に実施した感染症対策の実践整理」と「養護教諭の

実践に関して同僚の先生方にインタビュー調査」を行いました。

実践整理では、保健指導や「ほけんだより」、掲示物、委員会活動、先生方への情報提供などの内容を「感受性対策」「感染源対策」「感染経路対策」に分類しました。この実践整理を通して、注力していた内容やあまり発信していなかった内容等の傾向に気付くことができました。

さらに、インタビュー調査はコロナ期からの同僚の先生方に協力していただきました。その後、回答を分類しました。「最新情報を提供してくれて助かった」というような肯定的な回答だけでなく、「校内消毒の効果があったのか」「ソーシャルディスタンスの指導が大変だった」など、インタビューを通じて担任の先生方のニーズを改めて把握することにつながりました。

これらのことから、「教職員全員が感染症に対する危機意識を持ち、日常的に対応できる力をつける働きかけをすること」を目的にした研究を行いたいと考えました。教職大学院での学びやゼミの先生方からご助言をいただき、当初考えていた「新型コロナウイルス感染症対策の国際比較」のテーマとは大きく変わりましたが、先生方の意識や対応力の向上により、子どもたちの感染リスクを下げることができると期待しています。

これらの課題を解決するために、来年度の校内研修にどのような内容を入れるとよいか検討しています。効果的な研修にするため、ノールズ (Knowles, M.S) らの成人学習論を取り入れることを考えています。校内研修の効果的な方法を考えることは、今回の感染症の研修以外にも活かすことができると考えています。

来年度は、現場復帰をして教職大学院に通う予定です。教職大学院の学びの中で、課題を検討する際に記録を取る大切さを実感しており、保健日誌の書き方の改善も必要だと感じています。また、先生方のニーズを把握するためのシステムづくりを行い、校内での連携・協力の改善にも努めたいと思います。教職大学院で学んでいる省察と実践を関連づけながらアクション・リサーチを実行していきます。

このように、日々の実践を省察しながらよりよい学校保健活動を行い、チーム学校として子どもたちの心身の健康を支え、子どもたちの自己実現ができる基盤づくりをしていきたいと思っています。



各委員会委員からのメッセージ

ハーモニー第91号に続き、本学会の4つの委員会の委員から学会運営にかかわる思いを寄せていただくことにしました。今号は、広報委員会と学術委員会です。

①広報委員会委員の声

「広報委員の紹介」

委員長（広報担当常任理事）
塚原加寿子（新潟青陵大学）

広報委員会は、2021年に新設されました。現在4名で活動しています。主な活動は、学会ホームページでのタイムリーな情報提供とメール等を活用した会員への情報発信です。今年度から、学会誌のバックナンバーを学会ホームページからご覧いただけるようにしました。たくさんの皆様にご活用いただきたいと願っております。

委員に「広報委員になって感じたことや思い、広報委員会が携わっている活動に関する展望」について聞いてみました。

「広報委員としての使命」

広報担当理事 外山 恵子（愛知教育大学非常勤）

今期、本学会の広報委員を賜り、委員の皆様とともに委員会活動に携わっております。学会所有の知的財産のデジタルデータ化、ホームページの管理・更新、メール等を活用した会員の皆様への情報発信等、様々な広報活動を通じて、養護教諭教育並びに養護教諭の皆様の発展に貢献するとともに、子どもたちの健康と安全に寄与し、本学会のイメージ向上を目指すことができたらと思います。今後は、関係の皆様にも広く関心を示していただき、会員拡大につながる、より魅力ある広報活動を展開できたらと思います。

「プレスリリース：学会HPに研究論文等を掲載します！」

委員 平井 美幸（大阪教育大学）

学会員の皆様には、平素より広報活動へのご理解ご支援を賜り御礼申し上げます。

広報委員会では、当学会のホームページにて新しく情報発信すべく検討を重ねてまいりました。この度、研究論文等学会誌に掲載されている内容をホームページ公開することになり、学会内外の皆様には当学会の成果や知見等にアクセスしていただきやすくなります。是非、皆様にご活用いただければ幸いです。

今後も、学会員の皆様の信頼と期待に応え、社会貢献し得る広報活動をめざし、微力ですが尽力してまいります。広報活動へのご意見・ご要望などどうぞお聞かせください。どうぞよろしくお願いいたします。

「広報委員として」

委員 三森 寧子（千葉大学）

このたび、本学会に新設されました広報委員会の委員を拝命いたしました。広報委員として何をすべきか、まだまだ手探りの状況ですが、委員の皆様と活動させていただいております。

学会としての方向性を大切にしつつ、より学会活動の活性化につながるような活動が出来ればと思っています。そのためにはホームページの充実や、メールを活用した情報発信などできることから進めていきたいと思っています。

本学会が養護教諭養成教育に携わる人と学校現場における実践者である養護教諭の皆様にとって意義ある学会となるよう広報活動に尽力してまいります。学会員の皆様にはご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

②学術委員会委員の声

「学術委員会の活動」

委員長（学術担当常任理事）
鈴木裕子（国士舘大学）

学術委員会では、委員会規程第3条をふまえ、助成金研究や投稿奨励研究の選定と研究支援、学術集会実行委員会への支援、一般発表演題区分にかかわる検討等を行っています。懸案である「養護」に関する検討についても、委員一同、推進していきたい強い思いを共有しています。しかし、大きな山を前に、どこからどのようにアプローチできるのか手探り状態が続いています。会員の研究支援も間接的に養護教諭の理論につながりますが、より能動的な学会の学術活動について委員の皆様と共に考えていきたいと思っています。

「出会いと学びに感謝して」

学術担当理事 工藤 宣子（千葉大学）

学術委員会の会議はZoomで行われていますが、話し合いを通じて、毎回多くの学びをいただいています。以前から知り合いだった方も「はじめまして」の方も、画面を通してお話を伺うにつれ、対面でお話ができたら本当に楽しいだろうなと思うばかりです。

ハイブリットで行われる今回のプレコンgres。どのように進むのか期待と不安はありますが、皆様との出会いから新たな学びを得られること、とても楽しみにしています。ご参加される皆様に、「参加してよかった」と思っていたけるよう、委員長を中心に準備させていただいています。皆様との出会いと学びに感謝して、どうぞよろしく申し上げます。

「プレコンgresに向けて」

委員 籠谷 恵(東海大学)

2021年より学術委員を拝命し、活動させていただいております。当初より、養護にかかわる学問構築に向けた意見交換を行っていますが、任期中に何を目標とし、どのように取り組むのか、非常に壮大なテーマであるため、難しさを感じています。しかし、委員の先生方と意見交換をすることで、養護学の歴史に触れ、また養護教諭の専門性について考えることができ、大変ありがたい機会となっています。

12月に行われる日本養護教諭教育学会第31回学術集会のプレコンgres「養護教諭の専門性を支える学問について考えよう」では、参加者の皆様と意見交換できることを楽しみにしております。よろしくお願いいたします。

「現職養護教諭の立場から」

委員 中森あゆみ(公立小学校養護教諭)

鈴木裕子先生よりお誘いいただき、学術委員となりました。私が本学会会員となったのは、社会人を対象とした大学院の博士後期課程に入学したことがきっかけでした。学術集会での口演発表や論文投稿を経験し、学術の世界の奥深さと、学校現場とのつながりを感じることができました。

学術委員としては何もお役に立てていないのが現状ですが、私の役目は学術の場に学校現場の空気を漂わせることだと思っています。一方で、周囲の養護教諭の方たちに、本学会の様子や話題となっている研究課題などを知らせていくことも必要だと考えています。

任期終了まで、今後ともよろしくお願いいたします。



事務局からのお知らせ

総務担当理事・事務局長 加藤晃子

会員の皆様には、平素より学会運営にご理解とご協力を賜り深く感謝いたしております。

●2023年度年会費の納入をお願いいたします。

10月1日より2023年度事業の会計となります。すでに会員の皆様には年会費振込票をお送りしていますので、納入をお願いいたします。

●メール登録はお済みでしょうか。

オンライン研修会等の開催連絡をはじめ、タイムリーな情報提供のためにメールアドレスのご登録をお願いしています。

登録は、右のQRコードまたは学会HPをご利用ください。



●『養護教諭の専門領域に関する用語の解説集<第三版>』の購入申込手続きが簡単になりました。

右のQRコードまたは学会HPのフォームをご利用ください。

なお、先着順にて、学会設立30周年記念クリアファイルをプレゼントさせていただきますので、お早めにお申し込みください。



●既刊学会誌を学会HPに掲載しました。

第25巻第2号までの巻頭言、特集、研究論文、学術集会企画、要望書等を学会HPにアップしました。

第1巻第1号は創刊号として全文掲載しています。

今後は、新刊の第1号及び第2号が発刊された後に前巻の第1号・第2号を公表いたします。

編集後記

第31回学術集会(新潟市)が間近に迫ってまいりました。久しぶりにプレコンgresが開催され、ワークショップに加えて課題セッションなど、企画も盛りだくさんです。昨年(札幌)以上の規模になるであろう対面開催も楽しみです。参加された会員の方々のご感想を是非お聞かせください。

「新・私の実践と研究⑥」では、現職養護教諭の方の教職大学院修学について詳しく教えていただきました。専修免許状取得を目的とした「大学院修学休業制度」は最長3年間の休業が可能ですが、記事のように1年間の休業でも実践を省察するきっかけとなることがわかります。一人職だからこそ大切にしたい振り返りの視点について考える機会になりました。(西岡かおり, 山本訓子)